

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
20	杏林大学	言語の歴史(中)	千野 万里子 外国語学部准教授	2	秋学期	月	15	14:40～16:10	杏林大学 井の頭キャンパス	1～2

【到達目標】

中国語の歴史的変遷をたどりながら、中国語を学ぶ上で知っておきたい基礎知識を身に付けることを目標とします。

【授業の概要】

皆さんはこれまで中国語を学習してきて、どのような感想を持ちましたか。中国語のことをなぜ「漢語」と呼ぶのか。「簡体字」とは何か、なぜ簡体字を使うのか。中国語の発音をなぜアルファベットで表すのか。中国語の発音と日本語の漢字の音読みはどうして違うのかなど、いろいろな疑問を持ったことでしょう。本講座では、皆さんの疑問に答える形で、中国語がどのような道をたどって現在の姿になったのかについて見ていきます。

【授業内容】

第1回 オリエンテーション

内容 中国語を半年以上学んで気づいたこと、疑問に思ったことを各自箇条書きにする。現時点における中国語に関する知識を整理することを目的とする。

第2回 中国語の誕生とその変遷

内容 現代中国語の特徴を確認し、中国語の誕生とその変遷について概観する。

第3回 文字1

内容 漢字の特徴について確認し、中国語と漢字の関係について検討する。

第4回 文字2

内容 甲骨文から簡体字までの字体の変遷をそれぞれの特徴を確認しながら順にたどる。

第5回 文字3

内容 最古の字書・許慎の『説文解字』を紹介し、その中で用いられている「六書」について理解する。

第6回 発音1

内容 現代中国語の発音と現代日本語の漢字音の違いが見られる原因を探る。

第7回 発音2

内容 現代中国語で用いられるピンイン表記が考案される以前の表音方法について学ぶ。

第8回 発音3

内容 古代中国語音の復元方法と日本漢字音の利用の仕方について学ぶ。

第9回 語彙1

内容 古代中国語の語彙と現代中国語の語彙の違いについて確認する。

第10回 語彙2

内容 時代とともに変化した語義について確認するとともに、その要因についても探る。

第11回 語彙3

内容 日中同形語について中国語の外来語受容の視点から考える。

第12回 文法1

内容 古代中国語と現代中国語では文法上どのような違いがあるのかについて考える。

第13回 文法2

内容 時代とともに精密化された中国語の表現について、具体例を挙げながら確認する。

第14回 文法3

内容 19世紀半ばから西欧語の影響により生じた中国語の文法上の変化について学ぶ。

第15回 総復習

内容 今学期に学んだ内容についての総復習を行う。

授業形態:講義・質疑応答

・毎回授業終了時にその回に学んだ内容についての小レポートを作成し提出してもらう。

【成績評価方法】

授業態度と小レポート(50%)、期末テストの結果(50%)から判断する。

【教科書】

プリントを配布する。各自、ファイルにとじるなどしてきちんと保管すること。

【参考書、教材等】

適宜、紹介する。

※ この授業は、9/20(月・祝)が初回です。